

## LAN アクキュライザーの活用(1) ーアナログと配信音源再生(1)ー

### 1. 始めに

アナログ再生と、CD、ハイレゾファイル音源、配信音源の比較試聴は折りに触れて実施してきましたが、LAN アクキュライザーの導入により配信音源のレベルが上がってきましたので、アナログと配信音源再生の直接比較を実施してみます。

### 2. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴計画

アナログ再生とデジタル音源の比較試聴は、スピーカーアクキュライザーの導入を機会に、[スピーカーアクキュライザーの導入\(15\)](#)の報告以降 16 回にわたって実施しています。

今回、LAN アクキュライザーの導入(15)で報告しましたように LAN アクキュライザー2 個を導入した結果、配信音源のレベルが上がってきたので、改めてアナログ盤と配信音源の比較試聴を行います。この際、比較対象は、マスターが同じと思われるアナログ盤と STAGE+の配信音源を選択します。

今回試聴するのは、イザイの 6 つの無伴奏ヴァイオリン・ソナタです。

アナログ盤

ドイツグラモフォン 486 4177 (45 回転盤)

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

Stage+

ヒラリー・ハーン (ヴァイオリン)

### 3. LAN アクキュライザーLACU-1 の試聴結果

上記の比較は、[スピーカーアクキュライザーの導入\(29\)](#)で報告していますが、この時点から次のような変更があります。

アナログと STAGE+双方に関係する変更は、[スピーカーアクキュライザーの活用\(1\)](#)で報告したスピーカーアクキュライザーの位置の変更とスピーカーアクキュライザーからのバイワイアリングの変更および[スピーカーアクキュライザーの活用\(11\)](#)で報告したバイワイアリングケーブルへのケーブルチューナーの装着です。

STAGE+に関係する変更は、[LAN アクキュライザーの導入\(15\)](#)で報告した、ルーターからスイッチングハブへの LAN ケーブルとスイッチングハブへの LAN ケーブルへの LAN アクキュライザーの装着です。

録音年代が新しく、アナログ盤の再生は RIAA カーブで、位相反転はしていません。

ん。

アナログ盤の再生では、[ディスコグラフィー【2023No.191】](#)で紹介した本年7月発売の45回転盤の意欲作を使用します。この曲は、演奏は違いますが、演奏会で何度も聴いて耳に馴染んでいるもので、第3番は昨年9月にアリーナ・イブラギモヴァの無伴奏ヴァイオリンリサイタルで聴いています。

音質は厚みと奥行き感のあるウオームトーンですが、この曲のもつスリリングな側面もよく表現しています。ヒラリー・ハーンのボウイングや胴鳴りの様子が再現され、演奏会で聴くような雰囲気再現され、45回転盤のメリットを感じます。

STAGE+再生では、上記アナログ盤と同時期の公開のもので、ヒラリー・ハーンの切れの良いボウイングの様子が細部に至るまで再現されています。アナログ盤に比べるとクールな表現になりますが、以前のようなギャップはありません。

#### 4. まとめ

アナログと STAGE+双方に関係する変更の効果により、ともにグレードがあがり、STAGE+の配信音源の再生では、2ヶ所への LAN アクライザーの装着の効果でアナログに近づいた印象です。

以上